

第2回 天理市総合計画審議会	
日 時	令和6年8月8日(木) 10:00~11:10
場 所	天理市役所5階 533会議室
出席者	<p>委 員 伊藤会長、板倉委員、岡田委員、吉田委員、市本委員、大橋委員、松村委員、森本委員、倉持委員、辻沢委員、中田委員、藤山委員、牟礼委員、山添委員、秋山委員、中畠委員、松井委員</p> <p>岡田オブザーバー</p> <p>事務局 天理市…上田公室長、中田課長、仲本係長、郡主査、岩出主査 ランドブレイン株式会社…山北、吉岡</p>
次 第	<p>1. 開会</p> <p>2. 新委員及びオブザーバーの紹介</p> <p>3. 案件</p> <p>- 1. 総合計画審議会委員からの意見、提案の対応について</p> <p>- 2. 天理市第6次総合計画(「後期基本計画」及び「(仮)天理市デジタル田園都市構想総合戦略」)の素案について</p> <p>- 3. その他について</p> <p>4. 閉会</p>
資 料	<p>1. 天理市総合計画審議会委員名簿</p> <p>2. 席次表</p> <p>3. 総合計画審議会委員からの意見・提案及びその対応について</p> <p>4. SDGs 未来都市</p> <p>5. 天理市第6次総合計画 後期基本計画(案)(R6.7.31時点)</p> <p>6. (仮)天理市デジタル田園都市構想総合戦略(案)(R6.7.31時点)</p>
	1. 開会
	2. 新委員及びオブザーバーの紹介
事務局:	(事務局より新委員及びオブザーバーを紹介)
	3. 案件
	3-1. 総合計画審議会委員からの意見、提案の対応について
事務局:	(資料3、資料4について説明)
ランドブレイン:	(資料3の意見No.30について説明)
会長:	ただいまの説明内容について、皆さんから意見・質問はあるか。
委員:	未婚率の推移を見ると、平成2年から令和2年にかけて天理市は21.5から36.7に上昇しているが、実際の人数や割合は分かるのか。
ランドブレイン:	国勢調査を用いたデータであり、実数でいうと、25~49歳の人口は平成2年で総数22,300人のうち未婚者は4,784人、令和2年は総数17,495人のうち未婚者は6,418人と、実数と割合ともに増えている。
委員:	25~49歳の未婚率とのことだが、その中でも若い25~27歳の実数はどうなっているか。若い方の未

婚率が高いと今後が心配だ。

トブレイン： 事前送付している人口減少分析・市民意識調査分析結果報告書をご覧いただくと、25～29歳のグラフは載っていないが、令和2年の未婚率はそれぞれ、30～35歳は43.4%、35～40歳は32.1%、40～45歳は25.4%と、年齢が上がると未婚率は下がっている。若い方が未婚率は高いといえる。

3-2. 天理市第6次総合計画（「後期基本計画」及び「(仮)天理市デジタル田園都市構想総合戦略」）の素案について

トブレイン： （資料5、資料6の説明）

会長： ただいまの説明内容について、皆さんから意見・質問はあるか。

委員： 6-2「緑・河川・景観」の現状と課題の最後、「老木の撤去」ではなく「老木の更新・撤去」に修正をお願いしたい。現在、街路樹については議論が進んでおり、単に伐採するのではなく植え替えるといった話がされているため。

6-5「環境保全」の施策1. 自然環境の保全の取組みの3点目について、現在、福住地域で絶滅危惧種の生物が発見され、福住小中学校と地元も一緒に保全と調査に取り組んでいる。そのため、他市との差別化を図るためにも「動植物の適正な保全（絶滅危惧種等を含む）」といった表記に変更をお願いしたい。

事務局： 老木については事務局で把握できていなかった部分があるためご指摘のとおり更新したい。絶滅危惧種については、福住小中学校の生物部が中心となって取り組んでおり、SDGs未来都市の内容にも深く関わるためご提案のとおり記載したい。

委員： 4-2「商工業」について、市民意識調査の分析結果を見ると令和4年の結果だが、32の政策指標の評価のうち充実度が低いものとして、商工業はマイナスの指数が出ている。市民からは成果が出ていないと思われることを実感している。イチカについても、プレミアムであれば購入してもらえが普段は購入していただけない。

施策1. 活力ある商工業の振興として、様々なイベントを行っているが、人の流れやにぎわいがいと難しい。「商工業」と賑わいの分野を絡めて、人の流れを作るような施策があればよい。

生活支援として「チョイソコてんり」の事業は動いているが、インバウンド客に対して市内を回遊してもらえるようにするといった観光面ともタイアップするなど、すべての事業が連携して動かないと市民の満足度・充実度は上がらないと思う。観光と商業をセットで考える施策をお願いしたい。

事務局： 商工業の活性化には人の流れや賑わいは重要だと思う。チョイソコてんりについて、今年の4月1日から本格導入したが、現時点では市内在住者に事前登録して利用いただいております。観光面というよりは福祉面での支援としてスタートしている。今後は観光面でも利用できるように検討していきたい。

委員： 資料3の意見 No. 9について、誤解のないように補足説明をしたい。観光という言葉のもとで積極的なPRは難しいということである。拝殿等の施設は天理教にとって魂のふるさとであり、例えば皆さんの自分の実家が観光スポットとして積極的にPRされるのに抵抗感があるようなもの。かといって、現在も観光目的で来られる方はいるし、その方たちに案内もしているので、それに対してどうこう言うものではない。

委員： 4-1「農林業」について、農地を守ることを目的に、10年間の地域計画を作成するよう国から言わ

れている。地域計画を作っていくための施策を入れてほしい。

事務局： 担当課では、農地を守っていく上で長期就農なども考慮した地域計画を作る準備を進めている。策定にあたっての関連する施策について、担当課と協議して積極的に書ける部分があれば記載していきたい。

委員： 国は農地を担い手に80%集約するよう推進しているが、奈良県は遅れており、担い手がおらず集落営農が進んでいない。しかし農業効率化のために集約しなければならない。農地を集約して効率化を図っていくことを施策としてやってほしい。

事務局： 現在、福住地区をモデルとして、圃場整備を進めているところだが、地域によっては営農組合の取組みも進めてもらっている。国でも食糧支援システムの法整備なども進んでいる中で、耕作放棄地の解消や有機農業の推進などについても、今は福住をモデル地域として進めているが、全市的にも進めて行きたいと担当課の方でも考えている。

委員： 先ほど天理教の施設に関して意見があったが、市が一教団の後押しをするのは難しいかもしれないが、天理市に素晴らしい施設があることを示すのは大事だと思う。天理図書館や天理参考館などは非常に誇れるもので、参考館は大阪にある国立民俗博物館に匹敵する内容だと思うが、あまり知られていない。教団も一般の方が来られることを拒んではいけない。まずは知ることが大事なので、市としてはやっていない、というのではなく、支障のない形でやってほしい。

委員： 天理図書館や天理参考館は天理大学の施設であり、これから積極的にPRしてたくさんの方を迎え入れたいと考えている。駅前にできた天理大学とモンベルの共同運営のショップを通じて、天理図書館や天理参考館のPRもしてお客さんに来てほしい。広い意味では天理教の施設だが、学校法人の施設なので大学としても積極的にPRしたい。神殿となると宗教施設なので違いはあるかなと認識している。

委員： 1-4「高齢福祉」の施策3において、認知症カフェの記載があるが、認知症の方に限定せず、健康な方の憩いの場に関する施策もあればよいと思う。

事務局： 施策3は今後5年間で認知症の取組みに力を入れていくということで追加している。施策2、高齢者の生きがいがづくりの推進で、もう少し詳しく記載できるよう対応していきたい。

委員： 3-1「観光・国際交流」について、青年会議所ではアドベンチャーツーリズムに取り組んでいる。本市ではスポーツツーリズムが注目されており、歴史文化資源が多い中で、アドベンチャーツーリズムという表記があった方が魅力発信にも繋がると思う。

事務局： アドベンチャーツーリズムについて事務局で把握できていなかった内容があるため、後ほど詳しくご教示いただき、記載について担当課と協議していきたい。

会長： 4-3「雇用・就労」、7-1「行政経営」について、「行政経営」では様々な分野でDXを推進していくとあるが、DX人材の不足が課題になっている。どういう人がDX人材になるのかを考えた時、「雇用・就労」の観点で見ると女性の就業率が低いとある。女性は出産・子育てで一度離職すると、近年は少しマシになっているとはいえやはり仕事に復帰しづらく、また働きたくてもフルタイムでは働けないなどといった現状がある。DX人材であればオンラインで仕事ができるので、家庭で短時間、自分の時間で仕事ができる。とすると、女性のDX人材の育成に取り組めば、女性の就業率も上がりDX人材の育成にも繋がると思う。

事務局： 現在、市ではNTTからDX人材を雇用している。一方で、女性の就業については、行政職員として

言うと、働き方改革の一環としてテレワークを推奨している。デジタル化に関連した働き方をする中で、子育てと仕事を両立してもらえるように取り組んでいるが、女性のDX人材の育成となるとまだ弱い。今後そういった視点も含めて積極的に取り組めたら思う。

オブザーバー： DX人材は弊社でも男女問わず育成中。DXは概念が非常に大きく、現在、市と協力しながら、自動で業務が回っていくような仕組みを作るにあたって、どの業務をどうやるかを検討しているところ。DX人材はこれからどんどん育成するという段階である。女性に限定すると、弊社でもテレワークや時短勤務などが進んでいるので、組み合わせられたらいいと思う。DX人材はまだまだ発展途上なので育てながらリモートワークや時短で働けるなど女性が働きやすい環境を作り、そうしてDX人材の型が出来上がっていけば進んでいくと思う。段階的に進めていけたらよいと考えている。

委員： 4-2「商工業」の施策1. 活力ある商工業の振興において、空き店舗への対策を支援との記載があるが、店舗だけでなく倉庫やオフィスとしての使用を目的とした空き家への需要がある。空き店舗だけでなく、すべての空き家データの情報を商工会と共有してほしい。

事務局： 担当課と検討する。

会長： 分野2の教育では、みんなの学校プロジェクトやほっとステーションなどのキーワードが追加されている。どの自治体でも少子化による学校の統廃合が進んでおり、子どもたちが安心して学べる環境を作ることが大事だと思う。何か教育分野についての意見はないか。

委員： ほっとステーションについて説明すると、学校に対する要望などを学校が一手に受けるのではなく、第三者的な公平公正な立場の者が対応するものであり、一部の理不尽な要望に教職員が休退職に追い込まれているので、そういった部分を行政として支援する取組みである。市民だよりの表紙にも大きく掲載されたが、保護者の方などにほっとステーションを案内しており、結果、取組みが始まって半年ほどだが、学校でのトラブルが減ってきている。全国的にも似た取組みはあるが、行政が保護者への対応をしているのは珍しい。これからも推進していきたい。

会長： デジタル田園都市構想総合戦略についての意見はないか。そもそも総合戦略とは人口減少、少子高齢化の中で地域運営をどうするかを考えるために策定されるもの。今回はデジタルが前面に出ているが、地域・行政課題についてどういう取組みをすればいいかが問われている。基本的には前の戦略を踏襲している内容になるが、世の中の変化が激しい中で様子を見ながら、これから次の目標に向けてKPIなども含めどう進めていけばよいか課題だと思う。

他に質問・意見がなければ以上とする。もし後ほど質問等が出てくれば事務局に問い合わせさせていただき、また事務局から対応も含めて全体に共有していただきたい。

3-3. その他

事務局： (今後の予定、次回審議会の日程について説明)

以上